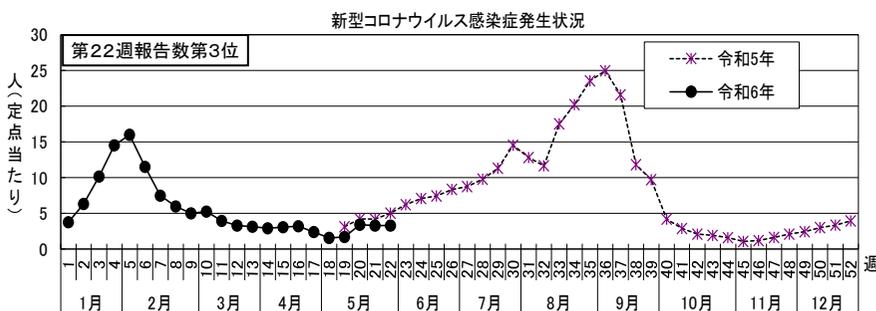
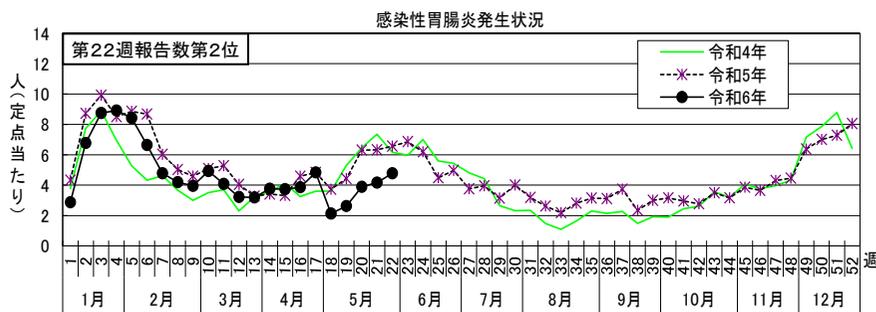
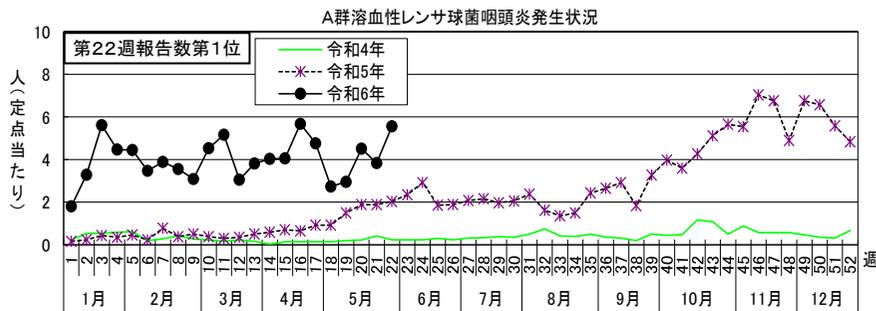


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年5月27日（月）～令和6年6月2日（日）〔令和6年第22週〕の感染症発生状況

第22週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 2) 感染性胃腸炎 3) 新型コロナウイルス感染症でした。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は5.56人と前週（3.83人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.78人と前週（4.17人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は3.28人と前週（3.28人）から横ばいでした。



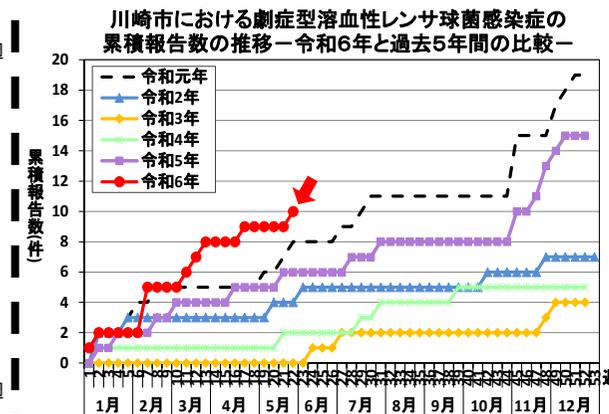
劇症型溶血性レンサ球菌感染症に御注意ください！

劇症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）は、溶血性レンサ球菌を病原体とする感染症です。発熱や咽頭痛に加え、四肢の痛みや腫れ等がみられた後、急速に症状が進行して、ショック状態から死に至ることもあります。

川崎市においては、令和6年第22週（5月27日～6月2日）までに計10件と、過去5年間の同時期と比較して最大の報告数となっています。

また、原因菌の1つであるA群溶血性レンサ球菌のうち、病原性や感染性が高いとされるM1UK系統株が、近年世界的に増加しています。市内でも、検査結果が判明している9件中4件から、M1UK系統株が検出されています。

STSSは発症早期の抗菌薬による治療が有効ですので、疑わしい症状がある場合は早めに医療機関に相談するようにしましょう。



劇症型溶血性レンサ球菌感染症について

- 【病原体】
溶血性レンサ球菌（A群、G群等）
- 【感染経路】
創傷感染、飛沫感染、接触感染等
- 【主な症状】
- 初期症状
発熱、咽頭痛、四肢の痛み・腫れ等
 - 進行とともに出現する症状
軟部組織病変、循環不全、呼吸不全等
- A群溶血性レンサ球菌は、小児の急性咽頭炎の原因となることもあります。